

仙台市地震防災アドバイザー室へようこそ!



いつもご覧いただきありがとうございます。
今回の更新で9回目となりました。

■ 地震が起きたら・・・津波が来る!

平成 17 年 2 月 22 日掲載

明日といわず、地震対策は今日(京)から!

本日のテーマは「地震が起きたら・・・津波が来る!」



写真提供: 今村文彦教授撮影
(東北大学大学院工学研究科
災害制御研究センター長)
2004/1/4~6 スリランカ南西部
(上下2枚共)

昨年の12月にスマトラ島西方沖でマグニチュード9.0の巨大地震(スマトラ沖大地震)が発生しましたが、その際におきた津波を伝えるテレビの映像に眼を釘付けにされた方も多いことでしょう。美しい海岸の沖合いに突然現れた波の壁、ものすごい勢いで海岸に襲いかかり、瓦礫を巻き込みながら街の通りを突き進む濁流、悲鳴をあげ逃げ惑う人々……。この大津波で、日本人を含め約30万人もの命が一瞬にして奪われたのです。

この地域では津波の恐ろしさが十分に知られていなかったため、地震後も情報を知らされないまま海岸にとどまってしまった方も多く、犠牲者を増やす結果になってしまったといわれています。

日本は地震大国であり、ましてや周囲を海に囲まれている島国です。過去には何度も大きな津波の襲来を受け、その度に大きな被害を被り多数の尊い命が犠牲になっています。

私たちはそれらの教訓を忘れず、津波の恐ろしさを知り、そのときどうすればよいかを考えていかなくはなりません。こうした心構えが必要なのは海岸近くにお住まいの方だけではないはず。今回のインド洋津波でも多くの観光客が犠牲になったことを忘れてはいけません。



地震津波への心構え

- 海岸で大きな揺れを感じたら、直ちに高台や高い建物などの安全な場所に避難する。
- 避難する場合は、まず、わが身の安全を真っ先に考えましょう。
- 海に津波の様子を見に行くことは止めましょう。気づいてからでは逃げられません。
- 津波は河川を遡上することもあります。川沿いの低い土地からも離れましょう。
- 津波の浸水が始まったら遠くへの避難はあきらめ、近くの丈夫な建物など、できるだけ高いところに上がりましょう。
- 状況によっては公的な情報を待っていては避難が遅くなる場合があります。自分の身は自分で守る意識が大切です。
- 震度と津波の大きさは必ずしも関係ありません。避難勧告や避難指示には従いましょう。
- 津波は最初の1波が最大とは限らず、数時間の間隔をおいて2波、3波とやってくることもあり、長い時間警戒が必要です

津波対策で最も重要なことは、いち早く安全な場所(高台など)に逃げることです。

仙台市では沿岸にお住まいの方や海浜利用者などに津波予報や避難情報を迅速にお伝えするため、「津波情報伝達システム」を整備しています。津波は地震の揺れを感じない所へも到達するので、災害情報をテレビやラジオなどでも確認しておく必要があります。